

令和4年市長年頭所感

皆様、新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、高山市政の報道に対し、ご高配を賜りましたことにお礼を申し上げます。

本年、新しい年を迎えて、皆様方と意見交換をさせていただきながら、新たな年をしっかりと一歩一歩確実に前へ進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

また今年は雪が3～4年ぶりに降った新年でございました。それぞれお忙しい中、こうして新年の記者会見にご臨席いただきましたことも重ねてお礼申し上げます。

私から年頭所感を申し上げさせていただいて、その後2つの案件につきましては、各部長からご説明をさせていただきますので宜しくお願い申し上げます。

年頭所感であります。私は寅年生まれで今年はある意味エポックな年だと思っております。今までのコロナ禍の中で行事や事業を延期、中止することが多くございました。経済関係についても、非常に苦しい時代であったと認識しております。

今年はコロナの感染状況にもよりますが、この2年間に我々が学習し身につけたノウハウを活かして、コロナに対応できる感染防止対策と更には経済対策をしっかりと生み出していきたいと思っております。虎は千里を往って千里還ると言いますので、その気概を持って、職員の皆さんにも取り組んでもらいたいと思っております。

今年の広報たかやまにも掲げておりますが、今年には六つの柱を考えております。1つは、やはりコロナ対策であります。ウィズコロナとアフターコロナのいわゆる適応と成長。市民の皆様の健康、命を守ることと、経済の活性化、立て直しをしていくということ、この2つをしっかりと行っていきたいと考えております。

2つ目は少子化問題です。毎月、人口動態が発表されますが、毎月、人口が減少しており、大きな課題になっております。また、市外に転出される方に比べ市内に転入される方が少ないというのが現状で、毎年1000人近くの人口減少となっております。この問題はやはり地域の活性化、あるいはコミュニティの存続、また芸術文化や伝統行事も含めて、その存続に大きな影響を与えてくることとなりますので、改めて取り組みたいというのが2つ目であります。

3つ目は2つ目とも関連しますが、SDGsの取り組みであります。昨年は未来都市の選定を受けました。持続可能な高山市をどうつくっていくかということで、世界から魅了される飛騨高山、国際観光都市飛騨高山をテーマに、観光というところを切り口にして、持続可能な都市をつかっていきたいという話であります。それに付随して、経済と環境と社会という切り口があります。特に環境という部分について取り組んでいく必要があると思っておりますが、まずは産業の活性化ということでもあります。地域で稼ぐということが大事ですので、経済をしっかりと立て直していくことを中心に、特に観光の取り組みをもう一度強めることと、地場産品をしっかりとアピールしながら、地場で生産されるものが地域外へ出てお金になって

返ってくるという仕組みをさらに強めていきたいというのが3つ目であります。

4つ目でありますけれども、ニューノーマルの時代の中で、国も進めておりますDX（デジタルトランスフォーメーション）であります。市役所の中のDXも大事ですが、市民の皆様と市役所とが繋がるDX。あるいはもう一歩進んで、事業者の皆様方のご協力をいただきながら、社会の中でDXがどう進んでいくのかという後押し、そのようなことも含めて、DXの推進をしていきたいというのが4つ目であります。

5つ目は、昨年松本市と高山市が姉妹都市提携50周年を記念して合意いたしております、松本高山ビッグブリッジ構想であります。松本市と高山市、2つの市が協力をしてその地域を発展させるような機構、組織を作りたい。DMO(※)のようなものを作りたいというのが1つの柱であります。全国的にも県境を超えたDMOはないと聞いておりますので、そこを築き上げながら、環境と経済、これがリンクして循環するような、脱炭素あるいは自然エネルギーの活用も含めてであります。構想の実現のための具体的な一歩を本年度は進めてまいりたいというのが5つ目でございます。

最後は、市職員にもお話をさせていただきましたが、節目を大事にしていきたいということでもあります。我々日本人が季節に節目をつけているのと同じように、私達の仕事にもやはり節目をつけて、折れない竹のような、しなやかな行政を進めてまいりたいと思います。

今年は、節目を迎える友好都市との交流がございます。神奈川県平塚市、福井県の越前市とは、昭和57年に友好都市提携をして以来40年目を迎えることとなります。さらには中国の雲南省麗江市との交流も平成14年に締結して以来、20年を迎えます。さらにはルーマニアのシビウ市とは平成24年に提携をして以来、10年を迎えるということで、今年は節目の年としてもいくつかあります。

昨年は松本市との友好都市提携で50周年、一昨年はデンバーとの友好都市提携60周年でございました。連続で数年間、節目の年を迎えますが、単に節目を迎えたので良かったということだけではなく、これまでの交流のあり方を検証し、新たな次の節へどう向かっていくのかという、新たな目標も作っていかねばならないと思っています。国際交流、国内交流も含めてありますが、地域との連携をどのようにつくっていくのかということについても、今年は取り組んでまいりたいと思っています。

いずれにいたしましても、やはりコロナが私達の生活に大きく影響しているところでありますので、まずは市民の皆様の健康と命を守るということに全力を尽くさなければいけないと思っておりますし、これに影響を受ける、良いこと悪いこと、いろいろあると思っておりますが、しっかりと分析をして対応し、そして成長戦略として何を求めていくのかということ、職員の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えております。

どうぞ今年1年、皆様方のご指導を賜りますことをお願い申し上げまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。一年宜しくお願いいたします。